

登録コード	J6010100	開講年度	2026			
授業科目	刑法				担当教員	濱田 新
英文授業名	Criminal Law				副担当	
単位数	4	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・3 時限 木曜・4 時限	対象学年
講義室	経法第 2 講義室		授業区分	講義	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー 非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	経法20加					
	経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。				刑法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できるようになる。	
	経法23加（2026改）・応用経済、経法23加・応用経済					
	専門知識を応用・実践する力として、計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価、実験経済学による社会制度の機能の検証、医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘、法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証、などのスキルを習得し、経済の実情に即した政策提言、あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。				法制度や社会制度のうち特に刑法と関連する制度の機能や効果、影響について経済学に関する専門知識の応用・実践を通じて検証する前提として、刑法に関する法概念や理論、判例について説明することができるようになる。	
	環境問題、少子高齢化、自然・経済リスクの管理、コーポレート・ガバナンス等の法制度がかかわる問題などについて、現実に関連領域との協力が必要となる。このために、関連する分野の考え方を正しく理解して経済学的分析手法との相違を把握し、経済学の知見を、柔軟にまた建設的に応用できる能力を身につける。				経済学と法律学とに跨る学際的な問題のうち特に刑法がかかわる問題について経済学の知見を応用して一定の解決方法を提示する前提として、刑法に関する法概念や理論、判例について説明することができるようになる。	
	経法23加（2026改）・総合法律、経法23加・総合法律、経法20加・総合法律					
	法学の専門領域の基礎能力として、リーガルマインドを備え、現代社会の諸問題を法的に解決していく上で必要な法学体系の基礎専門知識を身につける。				リーガルマインドを備え、現代社会の諸問題を法的に解決していく上で必要な刑法に関する基礎的な法概念や理論、判例について説明することができるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	キャリア					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	刑法は、犯罪と刑罰に関する法です。そして、刑法学の中心となるのは、どのような行為に対して、どのような犯罪が成立するかを明らかにすることです（犯罪論）。本講義では、犯罪論のうち、総論（共犯を除く）および各論（個人の重要法益）を取り扱い、刑法の犯罪論の基礎を身につけることを目的とします。具体的にイメージしやすいよう、まず犯罪論の基本的な考え方を説明した上で、刑法各論、刑法総論と講義を進めることにします。					
(5)授業計画	第 1 回 刑法の基礎 第 2 回 刑法の意義と刑法理論の発展 第 3 回 刑法理論の基本原則 第 4 回 刑罰法規の解釈 第 5 回 殺人罪 第 6 回 傷害罪 第 7 回 堕胎罪 第 8 回 遺棄罪 第 9 回 財産犯総説 第 10 回 窃盗罪 第 11 回 強盗罪 第 12 回 詐欺罪 第 13 回 恐喝罪 第 14 回 横領罪・背任罪 第 15 回 盗品関与罪・毀棄罪 第 16 回 中間試験 第 17 回 犯罪論体系 第 18 回 実行行為、間接正犯 第 19 回 不作為犯 第 20 回 未遂犯 第 21 回 中止未遂 第 22 回 因果関係論（基本構造） 第 23 回 因果関係論（事例紹介） 第 24 回 違法性阻却、被害者の同意 第 25 回 正当防衛 第 26 回 緊急避難 第 27 回 責任阻却、原因において自由な行為 第 28 回 故意論 第 29 回 錯誤論 第 30 回 過失、授業アンケートの実施 期末試験					

(5)授業計画	中間試験は第16回の授業で実施することを予定している。 小テストは、毎回の授業後に、eALPS上にて行う（小テスト15回、1回は3点）。
(6)成績評価の方法	試験（中間20点、期末35点）、小テスト（45点）による。
(7)成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題を解くにあたり、判例の立場を正確に理解した上で、自分の見解を提示することができていれば、「水準にある」。さらに加えて、判例の立場を詳細に論述できていれば「やや上にある」。応用問題が解けていれば、「かなり上にある」。応用問題を解くにあたり、自説の論拠が教員を感心させるレベルにあれば、「卓越している」。
(8)事前事後学習の内容	授業内容についての理解を問う小テストを、授業後に毎回e-ALPS上で行います。小テストのために毎回30分以上の復習が必要です。
(9)履修上の注意	授業へ出席し、30分以上の復習をしない場合、単位取得は難しい。 教室には、最新版の小型の六法を持ってくる下さい。どの出版社のものでも構いません。 試験の際には、書き込みのない、判例つきではない六法のみ、持ち込み可とします。
(10)質問,相談への対応	授業終了後に受け付けます。
【教科書】	木村光江『刑法(第5版)』（東京大学出版会・2025）
【参考書】	亀井=和田=佐藤=小池=薮中『刑法 総論(第2版)』（日本評論社・2024） 亀井=和田=佐藤=小池=薮中『刑法 各論(第2版)』（日本評論社・2024）